



大学院 Newsletter No.36 2024.8

酒田市の豪雨災害ボランティアに参加しました

7月25日(木)に山形県内で発生した豪雨災害のボランティアに本学職員が参加しました。

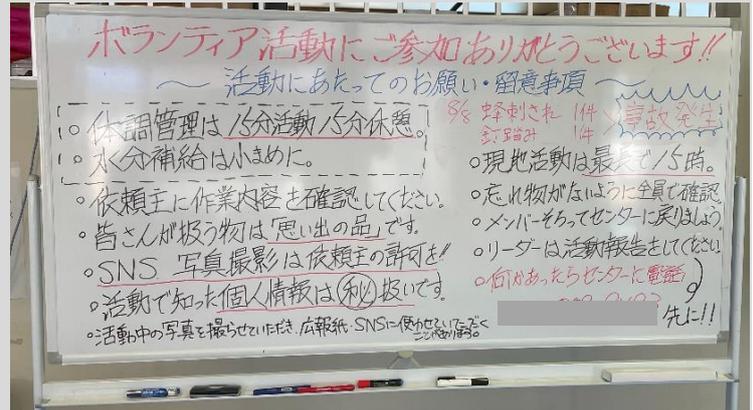
豪雨当日は、酒田キャンパス周辺が冠水したことから学生の安全を考慮し、学部は25日(木)の午後と26日(金)午前を休講、鶴岡キャンパスの大学院でも講義をオンライン等に切り替える等の対応を行いました。

災害ボランティアに参加したのは8月16日(金)。まずは平田地区にある酒田市災害ボランティアセンターに行き(※)、ボランティアをするにあたっての留意事項等の説明を受け、ボランティア場所とのマッチングを行った後に八幡地区の個人宅にて床下の泥出し作業を行いました。

ボランティアは10時から15時までの活動でしたが、夏場の活動であったため、熱中症対策として「15分活動 15分休憩」を徹底し、こまめな水分補給をしながら作業しました。

八幡地区は、近くを流れる荒瀬川が氾濫した影響により甚大な被害が出ています。河川氾濫による浸水では、汚水に細菌が含まれることにより臭いが発生します。そのため、早急な支援が必要です。

今回は、6人1グループで作業を行いました。活動時間内では住宅1軒分全ての作業を完了することができませんでした。災害時には人手がいくらあっても足りない大変な状況だということを感じました。



ボランティア活動にあたってのお願い・留意事項

同じグループに、災害ボランティアのために関東から来た方がいたためお話を伺ったところ、「東日本大震災の頃から災害ボランティアをしている。最近石川県能登半島地震の支援を行っていた。酒田市の豪雨災害に支援のニーズがあると聞いたので活動しにきた。」とのことでした。

活動時にはこれまでの経験を踏まえた助言やコツを教えてくださいました。継続してボランティア活動することの大事さを教えてもらいました。



八幡地区の温泉施設「八森温泉ゆりんこ」すぐ近く

関東からボランティアが来ているように、たくさんの方からご支援をいただいている状況です。ただ、ボランティア活動に参加して感じたことは、復興までにはまだまだ支援が必要だということです。今なお被災し大変な生活を行っている方がたくさんいます。支援の方法は様々ありますのでこの災害を自分の事として捉え、みんなで協力し合い1日でも早く元の生活に戻れるよう支援していきましょう。

報告:大学院事務室 田澤

(※ボランティアセンターは8月23日時点で八幡地区に開設されています。活動にあたっては事前申し込みが必要です。)

